

一般社団法人 日本神経精神薬理学会
第 61 回理事会議事録

日 時 2015 年 9 月 23 日 (水) 12 : 00 ~ 15 : 30
場 所 タワーホール船堀 4 階 406 会議室 (LS 控室 3)
〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1
出席理事 石郷岡 純、池田和隆、尾崎紀夫、加藤忠史、須原哲也、曾良一郎、武田弘志、中込和幸、
新田淳美、橋本謙二、橋本亮太、古屋敷智之、山田清文、吉岡充弘
以上、16 名中 14 名出席
欠席理事 久住一郎、橋本 均
出席監事 松田敏夫
欠席監事 齋藤利和
以上、2 名中 1 名出席
出席各種委員長
山脇成人、吉尾 隆
欠席各種委員長
内田裕之、渡邊衡一郎
オブザーバー 稲田 健

議 長 石郷岡 純

上記のとおり理事の過半数の出席があり、本会議は有効に成立した。

議 案 :

報告事項

1. 前回理事会 (第 60 回理事会議事録)、持回り理事会議決事項の確認がなされ、異議なく承認された。
2. 第 45 回年会 (第 37 回日本生物学的精神医学会との合同開催) 準備状況報告 (武田大会長)
武田会長から年会概要について報告がされた。
第 45 回日本神経精神薬理学会 (第 37 回日本生物学的精神医学会と合同開催)
テーマ: 精神・神経疾患におけるトランスレーショナルリサーチの実践と展開
場 所: タワーホール船堀
日 時: 2015 年 9 月 24 日 (木) ~ 26 日 (土)
会 長: 武田弘志 (第 45 回日本神経精神薬理学会会長)
国際医療福祉大学薬学部学部長・教授 / 大学院薬学研究科研究科長
中込和幸 (第 37 回日本生物学的精神医学会会長)
独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院副院長
・ 386 名の事前登録があった。
・ 今後逝去退会がある場合には、年会事務局にもお知らせいただきたいとの依頼がなされた。(座長や司会をお願いしているケースもあるため)
3. 各種委員会報告
以下、提出資料に基づき、各種委員会報告がされた。
 - a. 執行委員会 (石郷岡委員長、山田委員、橋本謙二委員)
 - 1) 理事会決議事項に関わる定款変更 (追加) が提出され、社員総会へ諮ることが報告された。
定款第 31 条に第 4 項として以下を加える。
4 理事会の議事については、法令の定めるところにより議事録を作成し、出席した代表理事、監事がこれに署名若しくは記名押印または電子署名し、理事会の日から 10 年間主たる事務所に備え置く。
 - b. 総務委員会 (山田委員長)
 - 1) 2016 年は会員名簿の発行年であるため、9 月から WEB での名簿掲載調査開始し、進めていることが報告された。名簿調査の終了は 10 月 31 日を予定しており、その登録時点で名簿版下を作成す

ることが報告された。

2) 名誉会員の稲永和豊先生が9月7日にご逝去されたことが報告された。物故者は総会にて黙祷を捧げるため、総会ではPPTで物故者名を掲示し、ご冥福をお祈りする。

c. 財務委員会(橋本謙二委員長)

審議事項を参照のこと。

d. 編集委員会(古屋敷委員長)

1) 2014・2015の刊行状況、投稿状況について報告がされた。

2) 投稿規定に利益相反の取扱いが明記されておらず、改訂の必要がある。編集委員会での議論後、倫理委員会・利益相反マネジメント委員会で確認をとり、理事会へ提出することになった。

3) 学会誌の今後あり方を検討していくため、以下のメンバーでワーキンググループ(以下、WG)を設置し検討していくことになった。

池田和隆(日本神経精神薬理学会副理事長)

久住一郎(同企画・研究推進委員長)

橋本亮太(同広報委員長)

古屋敷智之(同編集委員長)(ワーキンググループ委員長)

尚、9月26日には、同WGでの協議が終了し以下の提案が提出された。

【提案】

経費と学会員への負担軽減の観点からは廃止した方が有利との意見が数多く寄せられている。一方、本雑誌は歴史も長く、PubMedに掲載される貴重な和雑誌であり、一度廃止すると再度の立ち上げは困難でもあり、廃止するのはもったいないとの考えも少なからず寄せられている。そこで本ワーキンググループとしては、日本神経精神薬理学雑誌の今後のあり方を下記の通り提案する。

① ニュースレターを年4回ほど作成して学会ホームページに掲載する。このニュースレターにはCINP/AsCNP優秀発表賞、学会参加レポート、理事会・評議員会議事録、追悼文、新名誉会員紹介、年会プログラム紹介、学術集会などお知らせなど、学術的な要素の少ないものを掲載する。ニュースレターの配信情報を学会員にメールで周知する。

② 日本神経精神薬理学雑誌を年1回発行に縮小し、かつオンライン化する。冊子体を継続するか、廃止するかについてはワーキンググループ内で意見が分かれた。まずは希望者に限り冊子体を郵送する方法とし、冊子体の必要性については引き続き検討を続ける。

③ 編集委員会の業務が大幅に軽減されることから、広報委員会と編集委員会を統合して広報・編集委員会とする。

e. 広報委員会(橋本亮太委員長)

1) 9月14日にホームページをリニューアルしたことが報告された。会期中に対面式の委員会を予定しており、今後の活動方針を検討していくことが報告された。

2) 2013年度に制定・施工した「ホームページ運用マニュアル」、「会員メール配信運用マニュアル」に基づき、会員配信が進められていることが報告された。

f. 倫理委員会(尾崎委員長)

1) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年12月22日公布)、に則り、学会として倫理教育を提供することとした。9月26日には、有江文江先生(上智大学生命倫理研究所)にご講義『「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」についてー研究倫理コンサルタントとしての経験も踏まえてー』頂くことが報告された。

2) 本年度のNP/BP合同年会症例発表における倫理的配慮に関して、当委員会としては、以下を大会長に提案することとした。

- ・本年度のNP/BP合同年会症例発表に際しては、原則として予め患者から発表に関する同意(口頭でも可)を得た上で行い、外科関連学会協議会による「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針(添付)」を参考にして、患者のプライバシー保護を含む倫理的配慮に留意する。

- ・なお今後も、症例報告に関する倫理的配慮については時間をかけて議論する、また他の精神科関連学会(精神神経学会を含む)とも討議して、共同指針を目指す。

g. 国際学術委員会(山脇委員長)

1) 第4回 AsCNP 大会について

名称: 4th AsCNP Congress

開催日: 2015年11月20日(金)~22日(日)

会場: 台北、国際会議場(TICC)

主催: アジア神経精神薬理学会(AsCNP)

年会長: Prof. Tung-Ping Su

事務局長: Dr. Chen-Ta Li

共同開催: WPAIC(11月18-22日@TICC)

・学術賞選考委員会と連携し、JSNP会員の優秀発表者への賞を制定した。

2) 2015年4月以降の大会以外の主な活動および今後の予定

・4月22日に東京にて拡大執行委員会を開催した。

・JSNPより2015年度分の会費納入を確認した。

・第4回大会で若手優秀発表者への賞を予定している。

・リリー社より30万円寄付の予定である。

・オーストラリアが新たにAsCNPに参加(Brian Dean教授がカウンセラーに就任)となった。

・AcCNPからACNP年会への参加枠6名の決定がされた。(Prof. Tung-Ping Su, Dr. Shih-Ku Lin, Prof. Winston Shen、喜田 聡先生、中村和彦先生、宮川 剛先生)

・9月25日に東京にて理事長・セントラルオフィス会議の開催を予定している。

・11月20日に台北にて役員会議を開催予定である。

・2017年の第5回大会(インドネシア)は2月か3月開催に変更予定である。

3) CINP-JSNP2016大会への参加援助について

神経精神薬理振興基金における広島大学同門会からの寄附分はCINP活動への充当することで使用目的を限定し、執行にあたっては理事会承認を条件として管理運用している。来年JSNP-CINP2016をソウルで開催することから、日本から多くの参加を促すために同基金を活用したいとの提案があり、本活動のため300万円を充てることが承認された。

運用にあたっては、2016年度の基金事業費として470万円取崩し、実施事業を予定していたが上記の運用を承認したことにより470万円+300万円の合計770万円を計上することになった。

h. 学術賞選考委員会(吉岡委員長)

1) 今期は1件の応募があり本委員会で審査を行った結果、2015年度学術奨励賞に相応し業績であるとのことで、以下のとおり決定したことが報告された。本年会で受賞講演と授与式を執り行うことが報告された。

【受賞者】森口 茂樹(東北大学大学院薬学研究科薬理学分野・講師)

【研究課題】カルシウム恒常性破綻による認知・精神機能障害に関する神経精神薬理学的研究

i. 企画(研究推進)委員会(久住委員長・欠席)

報告事項はなし。

j. トランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会(石郷岡理事長、中込委員長)

1) 現在製薬企業1社から打診を受けており、契約の締結に向けて、実施内容等のヒアリングを進めているが、もう1社アドバイザー依頼が届いており、8月に面談を終えたことが報告された。

2) 今後の課題としては、CINP/JSNP合同タスクフォース会議でも議論されているが、各部会毎に問題点を整理し、アドバイザーに関する支援業務について、検討していく。

(1) イノベーションサイエンス部会【部会担当窓口】久住一郎・橋本謙二 各委員

(2) 評価系、規制問題検討部会【部会担当窓口】須原哲也・石郷岡純 各委員

(3) 知財・薬事検討部会【部会担当窓口】大野行弘 委員

(4) 標準治療・最適治療検討部会【部会担当窓口】石郷岡 純 委員

(5) 開発戦略検討部会【部会担当窓口】中込和幸委員長

k. 薬剤師ワーキンググループ委員会(吉尾委員長)

日本病院薬剤師会との連携について継続して調整中である。薬剤師が本会へ参加することへのメリット(興味・研鑽)として何かできるかを引き続き委員会で検討し、理事会へ提言していきたいとの活動方針が報告された。

1. 統合失調症ガイドライン作成タスクフォース(石郷岡議長)

1) ガイドラインの進捗状況につき、以下の報告がなされた。

薬物療法タスクフォースは、2013年10月の理事会において、統合失調症の薬物治療ガイドラインを作成することを決議され、ガイドライン作成作業を進めてきた。

今回ホームページへ最終版を公開するとともに、9月17日にプレスリリースを行い9月24日(木)午後2時より記者会見を行う。との報告がなされた。

2) ガイドラインの書籍化について

ガイドラインの書籍化も検討しているが、タスクフォース・著者間において、具体的な方針については、未決定の点が多いため、本理事会として書籍化について以下のとおり確認を行った。

(1) 書籍化については、前向きに進める。ただし、コストが発生する場合で負担が大きい場合には、理事会でも確認を行う。販売価格についても同様の確認とする。

(2) 著作権については、著者から学会へ委譲していただき、著者にも了解を取る。

(3) 出版社については、数社が候補に挙がっており有力候補として医学書院がある。

(4) COI等の確認は慎重を期すこととし、出版契約にも配慮する。

(5) 発行媒体についても、出版契約時に調整・確認を進める。

(6) 英文化についても日本語の書籍化後、ニーズ等も含めて検討していく。

m. Nomenclature ワーキンググループ委員会(内田委員長欠席のため山脇委員より報告)

1) トロント会議

2015年5月16日に開催され、Neuroscience-based Nomenclature (NbN)の新たなフォーマットにつき討議した。

2) 日本語版アプリ作成

ヨーロッパ神経精神薬理学会(ECNP)主導で翻訳素案作成。

ノーメンクレチャーワーキンググループが翻訳の修正、日本における商品名の追記を行った。

3) アムステルダム会議

2015年8月29日開催され、学術誌の編集者を招待し、NbNの投稿規定への掲載を依頼。

4) 今後の予定

日本語版アプリのリリース予定、日本語版アプリの完成後、学会ホームページで告知する。

2015年12月10日アメリカ神経精神薬理学会(ACNP)に合わせて会議開催予定である。

n. 薬事委員会(渡邊委員長欠席)

報告事項は無し。

o. 利益相反マネジメント委員会(石郷岡理事長)

前回の理事会で本委員会発足が承認され、現在、委員の選定を進めていることが報告された。

4. 第44回年会(第24回日本臨床神経精神薬理学会との合同開催)収支報告

1) コンベンションリンクページからの資料に基づき、収支・運営問題についての最終報告がされた。

2) 同資料については、CNP理事会でも承認されており、JSNPでも精査を行い、2014年度決算に反映したもので、前回理事会で継続審議であった学会監事の監査を行ったことが報告された。

3) なお、2015年度決算(法人)では、本件を含めた任意団体の資産を法人として受け継いでおり、2015年度法人決算として、公認会計士の監査も受けたことが併せて報告された。(詳細は決算報告参照)

5. 第46回年会(第30回国際神経精神薬理学会(CINP)と同時開催)準備状況報告(池田次期大会長)

池田次期会長より資料に基づき、以下の報告がなされた。

会期: 2016年7月2日(土)~3日(日)

会場: COEX、ソウル港南地区

年会長: 池田和隆(公益財団法人東京都医学総合研究所)

事務局長: 笠井慎也(公益財団法人東京都医学総合研究所)

運営業務委託業者: 株式会社エー・イー企画(日本側)、MECI(韓国側)

・2016年7月は2016年度期中での開催となるため、2016年度予算案に本会議開催予算も組み入れた。

- ・第46回年会時に臨時評議員会を開催し役員選挙を行う。正式な2017年度定時評議員会については、9月～11月間に改めて開催するものとする。
- ・ソウルで開催することもあり、日本からの参加が少なくならないようにバックや関連学会のクレジット申請、参加補助制度などを検討・企画中であることが報告された。
- ・特に薬剤師の先生方の参加が重要であり、関係薬剤師協会へのアナウンス・働き掛けを進めていくことが確認された。

審議事項

1. 2014年度収支決算報告（任意団体）、2015年度収支決算（法人）、監査報告について

- 1) 2014年度合同年会収支決算事案に関連し、2014年大会余剰金収入額（11,569,725円）が決定したところ、改めて任意団体の決算処理を行い、会計監査を受けた。2014年度当期収支差額は、10,342,222円となり、次期繰越収支差額は、28,932,237円であることが報告された。
引き続き、松田監事より監査報告がされた。
- 2) 振興基金会計は前回理事会にて承認済であることが報告された。なお、振興基金会計におけるCINP対応基金分は、2014年12月末現在、8,621,439円である。
- 3) 2015年度収支計算書が提出された。任意団体（一般会計）からの寄付（資産移行）は、28,932,237円であり、振興基金会計からの繰入収入（資産移行）は、27,414,257円であることが報告された。
振興基金会計は、法人として管理責任を明確にするため、一般会計内で管理し、資産を区別している。支出の部に、「神経精神薬理振興基金事業費」を設け、これまで特別会計で管理していた事業を同科目で管理とした。この事業活動資金として「神経精神薬理振興基金取崩収入」を設け、収支が一致するよう管理運営していることが報告された。
- 4) 公認会計士からの監査報告書が提示され、引き続き、松田監事から監査報告がなされた。
以上、本理事会として提出された全ての会計書類に関して、異議なく承認がされた。

2. 2016年度収支予算案について

- 1) 2015年9月1日から2016年8月31日までの予算案が提出された。2016年はJSNP-CINP大会がソウルで開催されるため、振興基金事業予算を770万円として計上した。この内、300万円については、振興基金内にあるCINP対応基金からソウル大会への参加に関した助成金として、捻出・運用していくことが承認された。
- 2) 上記の修正を経て、収入合計66,115,600円、支出合計72,590,600円、収支差額△6,475,000円にて社員総会へ提出することが承認された。
- 3) 事業収入においては、2016年7月にソウル大会があることから、今期は、第45回大会・第46回大会の2回分の大会収支を計上していることが報告された。
なお、第46回大会が2016年7月開催であること、韓国の業者との連携もあり2016年度（2016年8月31日）での会計報告の提出が難しい場合には、2017年度決算での報告となることが補足説明された。

3. 2015年AsCNP優秀演題発表賞について

第4回アジア神経精神薬理学会（AsCNP）でのJSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2015の募集を行い、14名の応募があった。学術賞選考委員会にて審査し上位10名を選考した。
発表および授賞式は第4回大会期間中に執り行う。
公示：2015年3月6日
締切：2015年5月31日（一般演題締切日と同日）
資格：筆頭発表者が日本神経精神薬理学会会員（2015年11月20日時点で年齢40歳以下、入会申込中を含む）であること。
副賞：5万円（10名を上限として選出）

4. 日本睡眠学会との連携について

- 1) 3月11日開催の持ち回り理事会で日本睡眠学会との連携について承認された。
日本睡眠学会/井上雄一理事長、日本神経精神薬理学会/石郷岡純理事長の連名で、第40回日本睡眠学会会長、第45回日本神経精神薬理学会会長、第37回日本生物学的精神医学会会長宛に提出された連携プロジェクトー合同シンポジウム相互開催の提言ーについて報告された。
(1) 日本睡眠学会年会（2015年7月2日・3日 宇都宮）
(2) 日本神経精神薬理学会・日本生物学的精神医学会合同年会（2015年9月24日～26日 船堀）

- 2) 今後の連携の在り方に関する合同会議については、2回のシンポジウムの参加者にアンケートを行い、連携に関する調査を行うとともに、今後の進め方を議論し、次年度以降の事業計画に反映してることが報告された。

5. CINP の PPPs 活動との連携について

- 1) CINP/JSNP 合同向精神薬開発 PPPs タスクフォースを設置することが承認され、ワーキンググループを立ち上げた。同活動の目的は以下のとおりである。

既に5月26日、7月26日と開催し、以下の方針にて活動を進めている。

目的：アンメットニーズが高い精神疾患に対する新たな向精神薬開発のイノベーションを実現するために、Pre-competitive な枠組みでその阻害要因となっているテーマをどのように克服していくかを議論し、日本から発信できる産官学連携の創薬支援体制(PPPs)を構築する。タスクフォースの成果は、2016年7月3日～5日にソウルCINP世界大会で公表する。

WG-1：ニューロイメージングバイオマーカーと創薬開発

PET、fMRIなどを活用したイメージングバイオマーカーを応用した創薬開発に関する議論。

WG-2：精神疾患の層別化技術開発

ヘテロな精神疾患を、脳科学的な根拠(ゲノム、血液バイオマーカー、認知機能検査など)に基づいて層別化していく技術を確立し、具体的な臨床研究や治験への応用に関する議論。

WG-3：治験登録症例基本データベース化の構築

治験で登録される患者の臨床評価や検査所見などの基本データ(どこまで共有化できるかを含め)のデータベース化と管理に関する議論。

JSNP トランスレーショナルサイエンス委員会(TMSC) <既存委員会>

個別の企業ニーズへの相談・助言を行う。

- 2) CINP/JSNP 合同向精神薬開発のための
産官学連携(PPPs)タスクフォース拡大会議
日時：平成27年9月23日(水)午後4時30分～
場所：タワーホール船堀
参加対象：CINP/JSNP 合同 PPPs タスクフォース委員
JSNP 評議員、招待者(PMDA、AMED)

6. 自動車運転に関する添付文書に関する検討経過報告

- 1) 自動車運転に関する意見交換会があり、当局から厚労省、PMDA、アカデミアから関係学会メンバーらが出席した。
- 2) 先ずはあらゆる資料の収集をしながら考え方を整理していく。次回の開催は年明けくらいに予定されている。
- 3) 本件では、今後 NP としても組織的な対応が必要となるため、当面の作業は、資料の収集と情報の整理を前提とし、以下の内容での対応を検討していくことになった。
 - ① 常設の委員会は必要ないと思われるので、タスクフォース方式で数名のチームを置く。
 - ② まとめ役は薬事委員会に依頼する。
- 4) 使用説明書等の記載の変更はかなりの段階が減る必要があるため、エビデンスの構築が必要不可欠となる。

7. 薬物治療ガイドラインについて

報告事項 1. 統合失調症ガイドライン作成タスクフォース(石郷岡議長)を参照のこと。

8. 日本老年医学会のガイドライン案に対するパブコメについて

2015年9月11日に日本老年医学会からJSNP・JSCNPに対して、同学会ガイドライン作成グループが作成しました「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」(案)にパブリックコメントに対して以下の回答メールがあった。

「(略)同学会からは、高い専門性に基づくご指摘、ご意見は大変貴重なものであり、本ガイドライン作成グループとして真摯に受け止めております。今回のパブリックコメント募集にあたっては貴学会のみならず他学会・団体をはじめとした多くの方々からご意見を頂きました。それらの多くのご意見を反映させた上で、どのように本ガイドラインをより良いものにしていくか慎重に検討を重ねて参りました。その結果、薬物リストの名称などガイドラインの中心部分に変更を加えることとなり、それも受けた各

論の修正及び再審議に長時間を要してしまいました。そのため、本回答が大変遅くなってしまいましたことを深くお詫び申し上げます。（略）」

添付書類：

1. 回答書
2. 新原稿（精神疾患、認知症-中核症状、パーキンソン病；修正箇所ハイライト）
3. 旧原稿（精神疾患、認知症-中核症状、パーキンソン病）
4. 全体版薬物リスト
5. 総論原稿全体

石郷岡理事長より、かなりの分量になることから、本理事会では別添資料として配布しお気づきの点等あれば、事務局までご連絡いただきたいとの依頼がなされた。

9. ラモトリギンに関するステートメントについて（報告）

2015年2月4日に厚生労働省から通達された内容について、日本うつ病学会、日本神経精神薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会の連名にて意見書を提出したことが報告された。

10. クロザピンのCPMSデータの論文化について

- 1) ノバルティス社からクロザピンのCPMSデータを提供してもらい、論文化してほしいとの依頼があった。TMSCの活動と連携し当会として、受託することが前回理事会で承認された。
- 2) このたび、具体的な契約書案の提示があり、本理事会にて審議を行い、以下の点を留意することで概ねの方針で、提示された契約内容を承認し、微調整については石郷岡理事長に一任することが確認された。
 - ・「本件」の内容を明確にした方がよい。
 - ・契約の内容を包括契約か、個々の契約か、契約書にどこまで盛り込むか進捗情報報告する。
 - ・企業と本会との契約のみでなく、本会と対応大学との契約も必要かを確認する。
 - ・支払いが発生した場合、会員への説明責任が生じることを確認しておく。

11. 来年の日本精神神経学会について

- 1) シンポジウムのテーマとして、以下の提案をしたことが報告され、本理事会として承認した。
 - (1) 提案者：久住一郎「統合失調薬物療法ガイドライン」を提出した。
 - (2) 提案者：尾崎紀夫「精神障害と自動車運転：運転事故新法および添付文書の現状を踏まえた今後の方向性」
 - (3) 提案者：石郷岡純「わが国のガイドライン概要」
 - (4) 提案者：新井平伊「BPSDは誰が診るのか？誰が診られるのか？」
- 2) 山脇成人国際学術委員長、須原哲也理事からPPPs関係とガイドラインの総論的な内容で提出予定であることが報告された。

12. 新評議員の承認の件

以下の12名が推薦され、審議の結果、新評議員として評議員会へ推薦することが承認された。

(敬省略)

桑 和彦（名古屋市立大学大学院薬学研究科）推薦：石郷岡純/池田和隆

辻野尚久（東邦大学医学部精神神経医学講座）推薦：吉尾 隆/稲垣 中

齋藤卓弥（北海道大学大学院医学研究科児童思春期精神医学講座）推薦：石郷岡純/池田和隆

宮本 修（川崎医科大学生理学）推薦：大熊誠太郎/池田和隆

池田弘子（星薬科大学薬物治療学教室）推薦：亀井淳三/成田 年

今枝孝行（ファイザー株式会社）推薦：山脇成人/池田和隆

岡淳一郎（東京理科大学薬学部薬理学研究室）推薦：山脇成人/池田和隆

酒井規雄（広島大学大学院医歯薬保健学研究院神経薬理学研究室）推薦：山脇成人/池田和隆

茶木茂之（大正製薬株式会社薬理研究所薬理第1研究室）推薦：山脇成人/池田和隆

牧野充裕（第一三共株式会社ベンチャーサイエンスラボラトリー）推薦：山脇成人/池田和隆

森尾保徳（田辺三菱製薬開発本部開発企画部）推薦：山脇成人/池田和隆

藪内一輝（大日本住友製薬株式会社開発本部臨床企画部）推薦：山脇成人/池田和隆

13. 新入会希望者承認の件

2015 年 4 月 1 日から 2015 年 8 月 31 日までに、正会員 25 名、学生会員 24 名、評議員 3 名計 52 名の入会
申込があったことが報告され、全員が承認された。

平成 27 年 9 月 23 日

一般社団法人 日本神経精神薬理学会 理事会

議長 代表理事 石郷岡 純

出席理事 池田 和隆

出席理事 尾崎 紀夫

出席理事 加藤 忠史

出席理事 須原 哲也

出席理事 曾良 一郎

出席理事 武田 弘志

出席理事 新田 淳美

出席理事 橋本 謙二

出席理事 橋本 亮太

出席理事 古屋敷 智之

出席理事 山田 清文

出席理事 吉岡 充弘

出席監事 松田 敏夫